

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571200231		
法人名	社会福祉法人 恒和会		
事業所名	グループホームゆうわ苑		
所在地	〒742-1352 柳井市大字伊保庄近長浜1-4		
自己評価作成日	平成24年12月21日	評価結果市町受理日	平成25年7月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者・入所者家族・職員を含め、大家族で生活しているという考え方の元で、個人の能力を生活に生かし個人にあった過ごし方ができるよう努めています。また、季節感のある工作物の製作やお菓子作りなど行事をとりいれ、職員共々楽しい空間作りを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関に毎日勤務する職員の顔写真が掲示され、家族が来訪したときに対応がスムーズに出来る体制を整えておられます。毎月、家族に事業所の様子を伝えておられ、身体状況、日中の過ごし方、夜間の過ごし方、今月のエピソードなど利用者を担当する職員が詳細に記載して送付されています。法人内研修は同じ内容で3回実施されており、全職員が参加できるように支援され働きながら学べるように取り組まれています。職員のアイデアで独自の脳活性化ゲームを作られ、利用者が楽しくゲームが出来る様に工夫されたり、月1回ドライブでパン屋に行くカフェツアーを企画され、利用者がパンを食べる楽しみの支援をしておられる他、掃除や洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の盛り付け、片づけ、畑づくり(草刈、収穫)など、楽しみごとや活躍できる場面をつくれ、利用者が張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として「地域の皆さんと少しずつ交流を持ちながらその方らしい生活を送って頂く」ということを理念とし、職員全員が認識している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり事務所内に掲示し、ミーティングで「その方らしい生活とは何か、その方のためにどうしたら充実した生活が送れるか」を話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で納涼祭・元気祭りなど行事を主催したり、地域のお祭りに入所者・職員が参加し交流している。	法人で行われる納涼祭や元気祭りには地域の人の参加もあり、納涼祭では利用者が浴衣を着て参加して、地域の人と交流している。地域の祭りに出かけたり、パン屋さんやファミリーレストランでおやつを楽しんだり、音楽ボランティアの来訪で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて認知症の勉強会を行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を職員全員で行い、外部評価の結果はミーティングで報告し改善方法について検討している。	自己評価票を職員全員に配り、各自で記入したものを、主任が取りまとめて自己評価を作成している。外部評価結果をミーティングで話し合い、具体的な改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回現状報告をすると共に、様々な取り組みについても話し合いや意見交換を行いサービス向上に努めている。	小規模多機能型居宅介護トータルケアゆうわと合同で2ヶ月に1回開催している。近況報告、行事報告、消防通報について報告して、献立についての意見に対して、法人の栄養士が参加して事業所の食事の栄養バランスについて説明するなど、サービスの向上につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人の地域連携室を通じて話し合ったり、運営推進会議を活用している。	市担当課とは、運営推進会議の他、法人の地域連絡室を通して連絡を取り、情報交換をするなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束につながる行為の理解を深めると共に、カンファレンスで検討し共有スペースを活用した見守りなどケアの工夫をしている。また、法人内に身体拘束廃止委員会を設置し研修を行っている。	法人内の身体拘束廃止委員会で3回同じ内容で研修があり、職員全員が研修を受け、理解して身体拘束をしないケアに努めている。玄関は施錠することもあるが、利用者の気持ちに添って外出したり、ゆっくり話をするなど、工夫に取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても委員会で勉強会を実施し理解を深め、各部署でも防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在各制度による支援を必要としている該当者がいないこともあり、勉強会や制度の活用について検討したことがない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を利用し十分な説明と契約を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情相談受付担当者を掲示し、意見箱を設けている。また、委員会で苦情を開示し対応策を示し玄関先に掲示している。	苦情相談受付体制や処理手続きを定め、周知している。運営推進会議時や家族参加の行事、月1回の病院受診時、電話、面会時等で家族の意見や要望を聞き、運営に反映させるよう努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで積極的に意見を求めると共に、日頃から連絡ノートや口頭での報告・連絡・相談を密にするよう努めている。	月1回のミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設ける他、日々の連絡ノートにその場で気付いたことを記録したり、業務の中で聞き、意見を運営に反映させるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で年2回人事考課と目標管理を行い、職員の個々の努力や実績を評価すると共に通常業務においても職員の向上心に配慮した業務配分を行うよう努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に人材育成委員会を設け、年間を通じて様々な職員研修を計画的に実施していると共に外部研修の機会も必要に応じて設けている。	計画的に実施している法人研修に職員全員が参加している。内部研修は、月1回のミーティングで行い、外部研修は勤務の一環として参加の機会を提供している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会に加入し、研修や交流会の場には積極的に参加するように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前より何度か体験利用を行い本人さんとお話する機会を設け関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用まで何度か面談を行いお話を聞き関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームは性質上相談を受けた際、即入居できない場合もある為、早急な支援が求められる場合には、他施設サービスや在宅サービスについても説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で食事の準備・片付け・掃除・洗濯・季節の壁飾りの作成などあらゆることを一緒に行き、大家族として一緒に生活をしているという関係作りに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から何でも話しやすい雰囲気づくりを心がけると共に、年数回ある家族の参加行事を行い利用者・家族・職員の信頼関係が築けるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と話し合い、苑でできる範囲での対応と家族での対応を両立させ、出来るだけ自由に出かけられるよう支援している。	家族と自宅で一緒に過ごしたり、初詣、法事への参加、墓参り、地域の祭りに行くなど、家族の協力を得て、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどで皆さんで遊ぶ時間がある。入所者同士会話をしている所もみられるが、聞き違いからトラブルになりそうな時などは、必要に応じて仲裁・見守りをするよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までサービス利用のあった方は、季節の挨拶を手紙にて続けている。ホームの近隣の病院に入院されている方には、折をみてお見舞いに出かけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での言動からの意向の把握に努めている。はっきりと意思表示されない場合でも、カンファレンスなどで意見交換し検討している。	利用者とのかかわりの中で声かけをし、利用者との会話や行動から思いや意向の把握に努めている。カンファレンスで話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴を家族から聞き、日々の関わりの中での言動から意向の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で言動からの意向の把握に努めると共に、家事や作業の分配を工夫したり、		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回カンファレンスを全職員で行い、入所者のケアに関して情報交換、検討し変更あればケア内容をそのまま反映している。	毎月1回、全職員でミーティングを行い、利用者全員のケアカンファレンスを行っている。本人や家族の要望、医師の意見、モニタリング等から一人ひとりのケアについて職員全員で話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月毎に見直しをする他、利用者の状況変化に応じてその都度見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の詳しい言動やそれに対する職員の対応を個別記録に記入し、朝・夕の申し送り活用しカンファレンスや介護計画に役立てている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に1回程度の行事の実施や車での外出、また個別の要望にも出来る限り応じるなど、グループホームだからこそできる支援の充実に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人を通じて協働している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、地域にかかりつけ医がある方は引き続き利用され、特にない方は協力医療機関をかかりつけ医とし1ヶ月に1回程度の定期受診、特変時にも対応できるようにしている。	本人、家族の希望するかかりつけ医や協力医療機関へ月1回程度、定期的受診を家族の協力を得て支援している。利用者の状態を記録したものを家族に渡し、かかりつけ医への情報提供をしている。急変時には協力医療機関との協力体制があり、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員と連携をとりながら、日常の健康管理を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人のお見舞いを兼ねて直接情報交換や相談に行くと共に、家族とも随時連絡を取りながら退院時のスムーズな受け入れが出来るように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的に医療行為や管理が必要となった場合にはほむでの対応が困難な為、家族と話し合い医療機関への入院が主となっている。重度化についてはどこまで対応できるか曖昧な為、家族と協議し支援している。	契約時に重度化に向けた方針について説明している。実際に重度化した場合は、事業所で出来ることを説明し、医師、家族と話し合っで移設も含めて支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	法人の委員会で勉強会などに参加し、事故防止に取り組むと共に応急手当ができるよう救命救急の講習をうけている。	利用者一人ひとりの状態を職員全員で把握し、対応策を検討し、事故防止に取り組んでいる。救命救急の講習を全員が受講している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い避難方法について学んでいる。法人を通じて地域の方々の協力が得られるよう努めている。	年2回、利用者も一緒に避難する防災訓練を行っている。運営推進会議に消防団員の参加があり、意見や提案を得ている。法人施設が地域の避難場所になるなど、法人と地域の協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わり(トイレ介助・入浴など)の中で言動に配慮すると共に、ケース記録の記入は事務室内で行うようにしている。	日々の言葉かけにおいて、否定的な言葉は使わないようにしたり、「ありがとう」の感謝の言葉を言うように気をつけている。気になる言葉かけについては主任が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で希望の表出や自己決定が出来るように意図的な声かけをするように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・入浴・食事・就寝など時間は大まかに定めているが、その時々希望や体調により臨機応変に対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院は家族対応で以前から利用されているお店に行かれたり、苑の美容サービスを利用している。行事や外出の日は、前日より洋服を選んだり、お化粧をしたりし気分を盛り上げている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ごはんや味噌汁の調理・盛り付け・食事・片付け全てを利用者と職員が共に行っている。法人の厨房から決まった献立が調理済みでもらえるが、アレルギーや好みによる食材の変更・形状の変更も可能となっている。	食事は法人の厨房からの配食を利用し、ごはん、汁物を事業所で作っている。利用者は盛り付けや片づけを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じものを食べ、職員は会話しながら食事が楽しめるように支援している。利用者の好みに応じて、肉を肴にしたり、刻みなどの支援をしている。おやつづくりを楽しんだり、外へ班やおやつを食べに出かけるなどの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食の摂取量を記録に残している。水分も毎食と10時、15時と19時夜間は随時とって頂けるよう工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回毎食後のうがい、夕食後の歯磨きを行っている。義歯は夕食預かりブラッシングしている。週1回ポリデントで洗浄している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗がある方もなるべくオムツや紙パンツの使用を減らし、タイミングを見計らってトイレでの排泄を促している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけのタイミングや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	カンファレンスなど利用し、個別に原因について話し合い飲食物・運動・服薬など工夫している。排便・排尿状況についても記録している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は月曜日～土曜日まで毎日15:00～17:00に入ることができ、入浴剤やハーブを入れ香りを楽しんで頂いている。日曜日や入浴されない方は清拭や足浴を行っている。	日曜日以外、15時から入浴時間とし、入浴剤やハーブを利用するなどし入浴を楽しめるように支援している。入浴したくない人へはタイミングをみて声かけするなど支援している。清拭や足浴など状態に応じて行っている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はお昼寝される方はして頂き、夜間は本人に任せ、体調や生活習慣や気分に合わせて入眠を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の担当を決め、その職員を中心に薬の管理を行っている。内服一覧表をカルテに いれ、全職員が把握に努めている。主治医 及び薬剤師に本人の状態など(毎日の血圧 など)書面や家族を通して情報提供してい る。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付け・掃除・洗濯・花の手 入れ・縫い物な個人の得意分野を生かせる ように支援している。	居室の掃除、洗濯物干し、食事の盛り付け、 食事の後片付け、すぐろくでの温泉旅行ゲー ム、玉入れ、折り紙、切り紙、習字、読書、歌、 畑作り、新聞の音読など楽しみや張り合いの ある生活が送れるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が穏やかな日は、戸外に出て散歩や畑 の手入れを楽しんでいる。月に1回程度ドラ イブなど外出支援を行っている。	近くを散歩したり、毎月1回、ドライブで季節の 花を見に出かけたり、パン屋さんでのカフェツ アーで好きなパンを食べて楽しんでいる。近く にある桜の花見にはほとんどの家族参加で一 緒に寿司を作り、楽しむ工夫をするなど戸外 に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭所持はトラブルの原因になるた め認めていない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に季節の手紙を送ったり、本人の希望 時には電話もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁飾りや小物を製作し設置したり、花を生けたりと見た目にも楽しい雰囲気を作り、音楽や照明は入所者の意向を確認しながら調整している。	玄関に季節の花を生け、オリジナルのカレンダーが掛けてある。フローアは明るく、外の木々や窓のそばにある畑が見え、自然の移り変わりを感じることができる。利用者の顔写真入りの季節に合わせた作品を作り、壁や玄関に飾っており、畳のスペースにはホットカーペットが敷いてあり、利用者は横になって休むことができる他、ソファでくつろぐことができるなど居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間には家の居間を思わせるようなテレビやソファ、畳スペースを設置し入所者が思い思いに過ごせるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある小物や小タンスなど持ち込みは自由で、壁面には苑で作成した作品を飾っている。ベット・棚・カーテンは備え付けの物を使用している。	居室の洗面台に季節の花が生けてあり、馴染みの整理ダンスや本棚を持ち込み、家族の手作りの作品を飾ったり、写真、小物、本、ぬいぐるみなど利用者の好みのものを持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー設計になっており、廊下・居室は手すりを設置している。浴室は一般浴槽の為個人の身体能力に合わせて支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名: グループホームゆうわ苑

作成日: 平成 25年 7月 31日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	・電子錠を2ヶ所使用しており、入所者が外に出たい時に出られない状況になっている。	・昨年から時間を決めて(10:00~14:00)老健側のドアを開放しているが、引き続き開放し時間を延ばしていく。	①朝入所者の様子を把握する。様子をみて電子錠の開放行う ②調子のよい日は開放時間を延ばしていく	1年間
2	35	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施	・年2回の法人内での避難訓練への参加 ・新人職員に対して消防署での救命救急訓練への参加 ・ミーティング内での勉強会の実施	①年2回の法人内での避難訓練への参加 ②新人職員に対して消防署での救命救急訓練に参加するように働きかける ③ミーティング内での勉強会の実施	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。